

# 【ケース別】 返金 & 返品の仕事事例集



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。  
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。  
※当資料は、2025年12月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

## 売上代金の返金・返品時の処理

商品の欠陥等により返品・返金が発生した場合、新収益認識基準の適用有無により「原則的な処理（上場企業等）」と「容認される処理（中小企業等）」に分かれます。

### 仕訳事例

（例）販売済みの商品（売価10万円、原価3万円）が返品され、代金を返金した。

**1. 原則的な処理：**販売時に計上した「返金負債」と「返品資産」を取り崩します。

借方	金額	貸方	金額
返金負債	100,000	当座預金	100,000
商品	30,000	返品資産	30,000

**2. 容認される処理：**計上していた「売上」と「売上原価」を取り消します。

借方	金額	貸方	金額
売上	100,000	当座預金	100,000
商品	30,000	売上原価	30,000

## 返金分の区分・クレジットカード決済のキャンセル

### 返金分を区分して管理する場合

売上の取り消しではなく「売上戻り」科目を使用することで、返金額を把握しやすくなります（決算時に売上と相殺）。

借方	金額	貸方	金額
売上戻り	100,000	当座預金	100,000

### クレジットカード決済のキャンセル

（例）カード会社から入金済みの売上5万円を、現金で返金した。

1. 原則的な処理：販売時に計上していた返金負債を取り消します。

借方	金額	貸方	金額
返金負債	50,000	現金	50,000

2. 容認される処理：販売時に計上していた売上を取り消します。

借方	金額	貸方	金額
売上	50,000	現金	50,000

## 売上代金の返金をしないケース（相殺・少額過入金）

### 次回の販売分と相殺する場合

返品分の返金を行わず、次回の代金に充当（相殺）する場合、貸方は「前受金」として処理します。

#### 仕訳事例（容認される処理）

（例）返品分5万円を返金せず、次回分と相殺することで合意した。

借方	金額	貸方	金額
売上	50,000	前受金	50,000

### 少額の過入金で返金不要の場合

請求額より多く入金され、少額等の理由で返金不要となった場合、「仮受金」を取り消して「雑所得」等を計上します。

#### 仕訳事例

（例）10円の過入金について、返金不要の連絡を受けた。

借方	金額	貸方	金額
仮受金	10	雑所得	10

## 仕入代金の返金・返品時の処理

仕入れた商品に欠陥があり返金を受けた場合、基本的には「仕入」を取り消す処理を行います。

### 仕訳事例

(例) 仕入れた商品（10万円）を返品し、代金の返金を受けた。

1. 通常の処理：仕入を貸方に計上して取り消します。

借方	金額	貸方	金額
当座預金	100,000	仕入	100,000

2. 返金分を区分する場合：「仕入戻し」科目を使用することで、返品分を区別して管理できます（決算時に「仕入」と相殺）。

借方	金額	貸方	金額
当座預金	100,000	仕入戻し	100,000